

# 第5期中長期計画の概要

防災科研は、防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発などの業務を総合的に行うことにより、防災科学技術の水準の向上を図ることを目的としています。防災科学技術とは、あらゆる種類・規模の自然災害（オールハザード）を未然に防止すること、災害が発生した場合の被害拡大を防ぐこと、これらの

災害を復旧することに関する科学技術であり、予測・予防、応急対応、復旧・復興という災害の全ての過程（オールフェーズ）に対応した災害に強い社会を実現するための科学技術を意味します。

防災科研を取り巻く下記のような環境の変化を背景に、第5期中長期目標のもと、計画を作成しました。

## 防災科研を取り巻く環境の変化

- ✓ 頻発化・激甚化する自然災害に対応しなければならない。
- ✓ 国難となり得る大規模災害の発生が予想される。
- ✓ レジリエントな社会の重要性が増大している。
- ✓ 総合知を積極的に活用する必要がある。
- ✓ 社会のデジタル化が急速に進展している。

## 環境の変化への防災科研の対応

オールハザードを的確に把握するとともに自然環境や社会環境のあり様を観測することで、レジリエンスの評価を行い、客観的データや科学的知見を活かし各主体が適切に意思決定できる基盤を作り、各主体のレジリエンス能力の持続的な向上を支援する。

防災科学技術に関わる各分野の知で個別に対応するだけでなく、デジタルツインの考え方に基づく知の統合によって、オールハザード・オールフェーズを対象とした研究開発を推進する。

## 第5期中長期計画期間（2023-2029年度）における取り組みのポイント

レジリエントな社会の実現に向けた防災科学技術の研究開発の推進

知の統合を目指すデジタル技術を活用した防災・減災に関する総合的な研究開発の推進

知の統合に必要な防災・減災のための基礎研究及び基盤的研究開発の推進